

氏名	宗形 奈津子
学位の種類	博士（心理学）
学位記番号	院博甲第 22 号
授与機関	東京成徳大学
学位授与年月日	2020 年 3 月 18 日
学位授与条件	学位規則第 5 条第 1 項
学位論文題目	巡回相談員を活用する特別支援教育の校内システムモデルの生成
論文審査委員	主査 田村 節子 東京成徳大学大学院 教授 副査 石隈 利紀 東京成徳大学大学院 教授 吉田 富二雄 東京成徳大学大学院 教授 田中 速 東京成徳大学大学院 教授

## 1. 論文概要：(1) 目的、(2) 方法、(3) 結果及び考察

### (1) 目的

- ① 特別支援教育を促進するために導入された巡回相談員に求められている役割・能力について明らかにするとともに、②特別支援教育の校内システムモデルの生成である。

### (2) 方法

- ①小・中学校の管理職とコーディネーター（計 857 名）及び巡回相談員（179 名）対象に巡回相談員の役割・能力および管理職・コーディネーターの巡回相談員に関する満足度について調査を行った。また②小・中学校の管理職・コーディネーター計 4 名に特別支援教育の校内システムに関する半構造化面接を行い、その結果について特別支援教育の実践経験のある専門家の評価を求めた。

### (3) 結果と考察

小・中学校の管理職とコーディネーターの調査結果に関して重回帰分析を行った、巡回相談員の「対人関係影響力」が管理職とコーディネーターの満足感の高さに影響していることが分かった。また、巡回相談員の中心的役割は、子どものアセスメントとコンサルティ（教師・保護者）へのコンサルテーションであることが確認できた。そして②特別支援教育の校内システムに関するモデルを、管理職から見たモデルと、コーディネーターから見たモデルを作成した。管理職は「全職員が支援をおこなえるような学びと協力が必要」という全体を見渡すマネジメントの視点で校内システムを進めているのに対し、コーディネーターは「保護者の理解を得ること」、管理職や校内の教職員、巡回相談員等との「チームとしての連携」を重視してコーディネートしていることが示唆された。また管理職モデル、コーディネーターモデルともに、特別支援教育の実践経験のある専門家から、モデルの実用性について十分な評価を得た。

## 2. 評価：

特別支援教育の巡回相談員が特別支援教育の充実に与える影響についての研究は少なく、また特別支援教育の校内システムに関する研究も少ないなか、本論文は学校

心理学の視点から新しい知見を提供するものである。研究の方法も、量的および質的調査研究法を適切に使用して、説得力のあるデータの分析が行えている。したがって、本論文は博士論文としてのレベルに達していると評価できる。

### 3. 最終試験結果：

---

2020年2月1日、公開において、論文提出者より報告を受け、質疑応答が行われた。その結果、最終試験に合格と判断された。

### 4. 結 論：

---

論文審査と最終試験結果の評価に基づいて、本論文は博士の学位に値すると判断された。

2020年2月17日